

調査速報

檜山海域スケトウダラ漁期中調査結果

2006年 12月 15日

北海道立函館水産試験場 (0138-57-5998)

2006年12月6～13日に、図1の海域で調査船金星丸を用いて檜山沿岸域のスケトウダラ漁期中調査を実施したので、結果をお知らせします。調査項目は、計量魚群探知機による魚群分布状況調査、CTDによる海洋観測、中層トロールによる漁獲調査です。

- 魚群の主分布域は、熊石から乙部にかけての沿岸域
- 魚群の主な分布は140～340mにみられ、昨年同時期よりも浅い
- スケトウダラの反応量は、昨年よりもやや減少
- 産卵適水温帯は、深度130m～200mにみられ、昨年よりも浅い

1. 魚探調査結果

・水平分布

スケトウダラと考えられる魚群反応は、熊石から乙部にかけての沿岸域で多くみられました(図2)。また、上ノ国以南の沿岸域では、昨年と同調査よりもやや強い反応がみられました。一方、沖合の奥尻堆(奥尻島南の海域)では、ほとんど魚群反応はみられませんでした。

・鉛直分布

魚群の主な分布水深帯は、乙部沖では深度140～340m、江差沖では180～240m、上ノ国沖では160～250mで、昨年同時期よりも浅くなっていました(図3)。また、延縄漁場内の魚群分布を南北に調査したところ、北の海域ほど反応が強く、分布層厚なくなっていました(図3)。

・魚群反応量

魚探による調査海域全体の魚群反応量は、昨年と同調査時をやや下回りました。

2. 海洋観測結果(水温)

主漁場である乙部沖および江差沖の水温図を図4に示しました。スケトウダラの産卵適水温である2～4の水温帯は、乙部沖で130～200m、江差沖で100～170mにみられ、乙部沖では昨年と同調査時(200～300m)に比べ70～100mも浅くなっていました。

3. 中層トロールによる漁獲物の体長組成

相沼沖(42°03N,140°01E周辺)で中層トロールによって漁獲したスケトウダラの尾叉長組成を図5に示しました。スケトウダラの尾叉長は36～54cm台で、その多くは40cm～44cm台にみられましたが、46cm台にもピークがみられました。

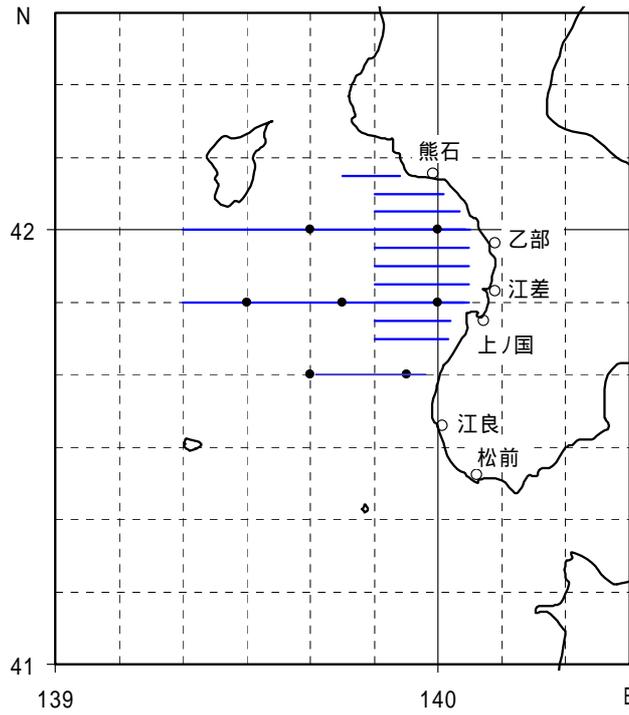


図1 スケトウダラ漁期中調査海域
青線は魚探調査ライン，黒点は海洋観測点

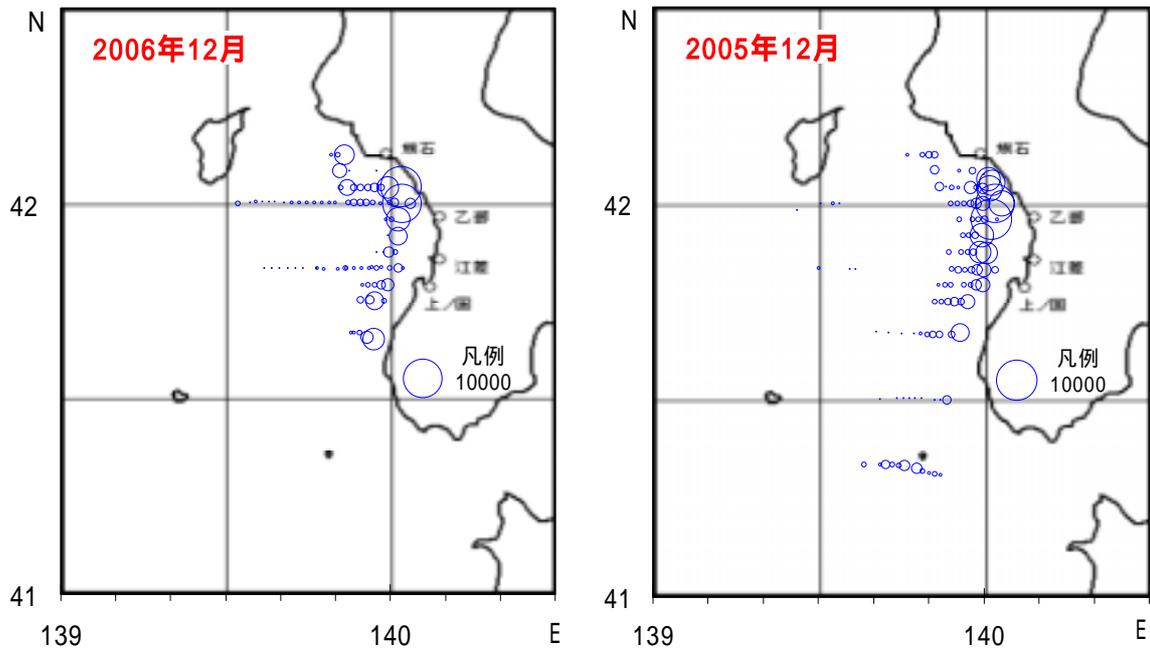
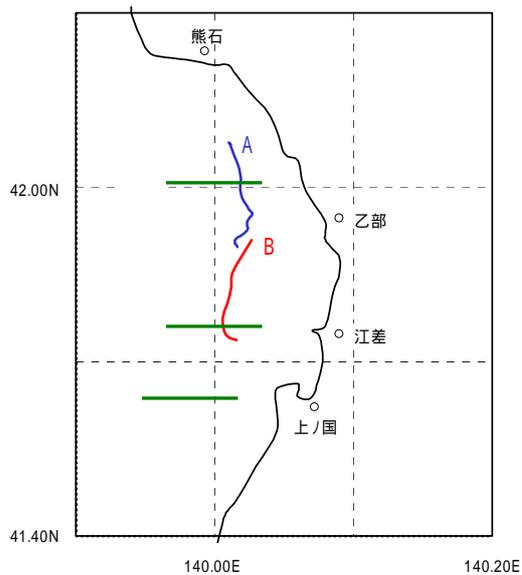


図2 調査海域における魚探反応量 ($S_A : \text{m}^2 / \text{NM}^2$)
丸の大きさが反応の強さを表す



各調査ラインの配置図

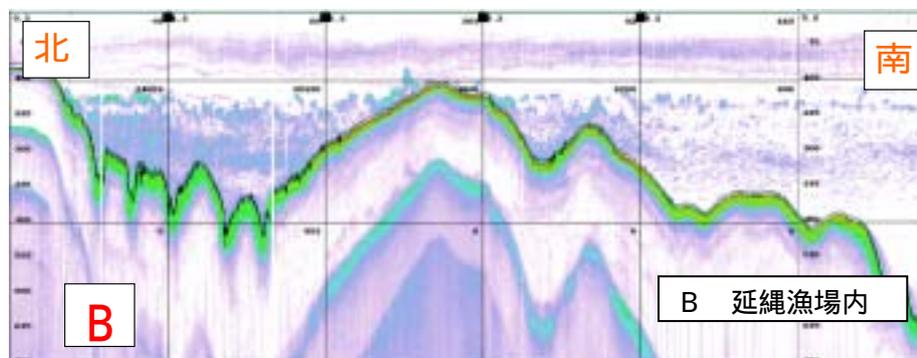
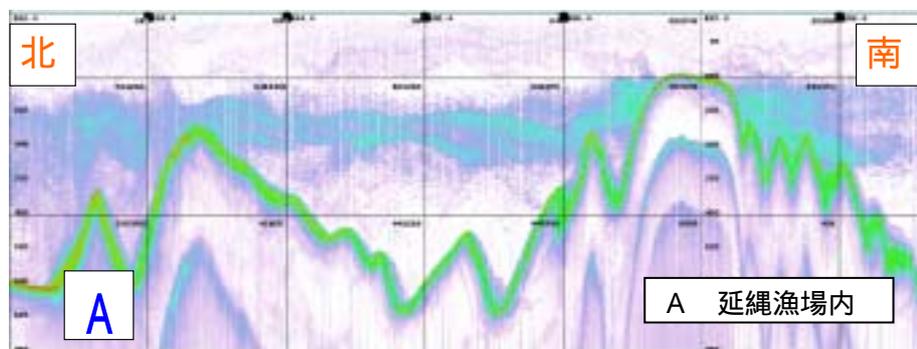
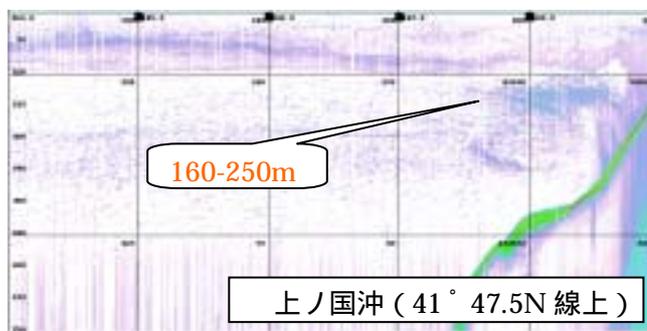
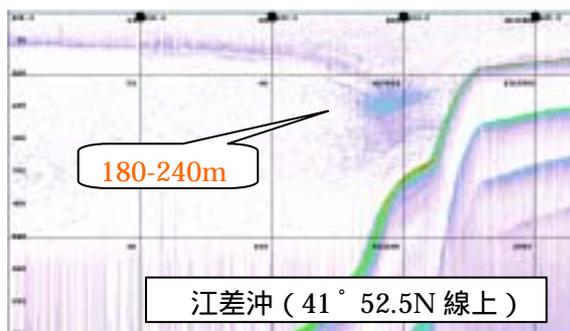
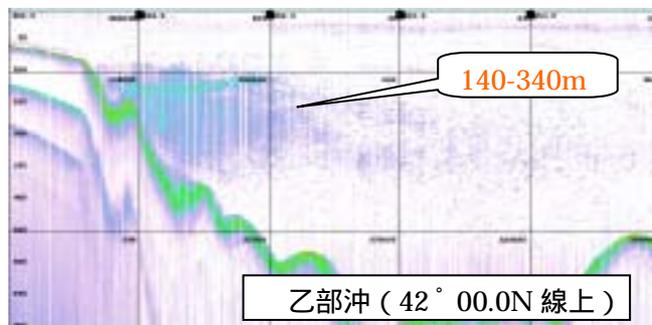


図3 乙部沖， 江差沖， 上ノ国沖および延縄漁場内（A， B）における魚探反応図

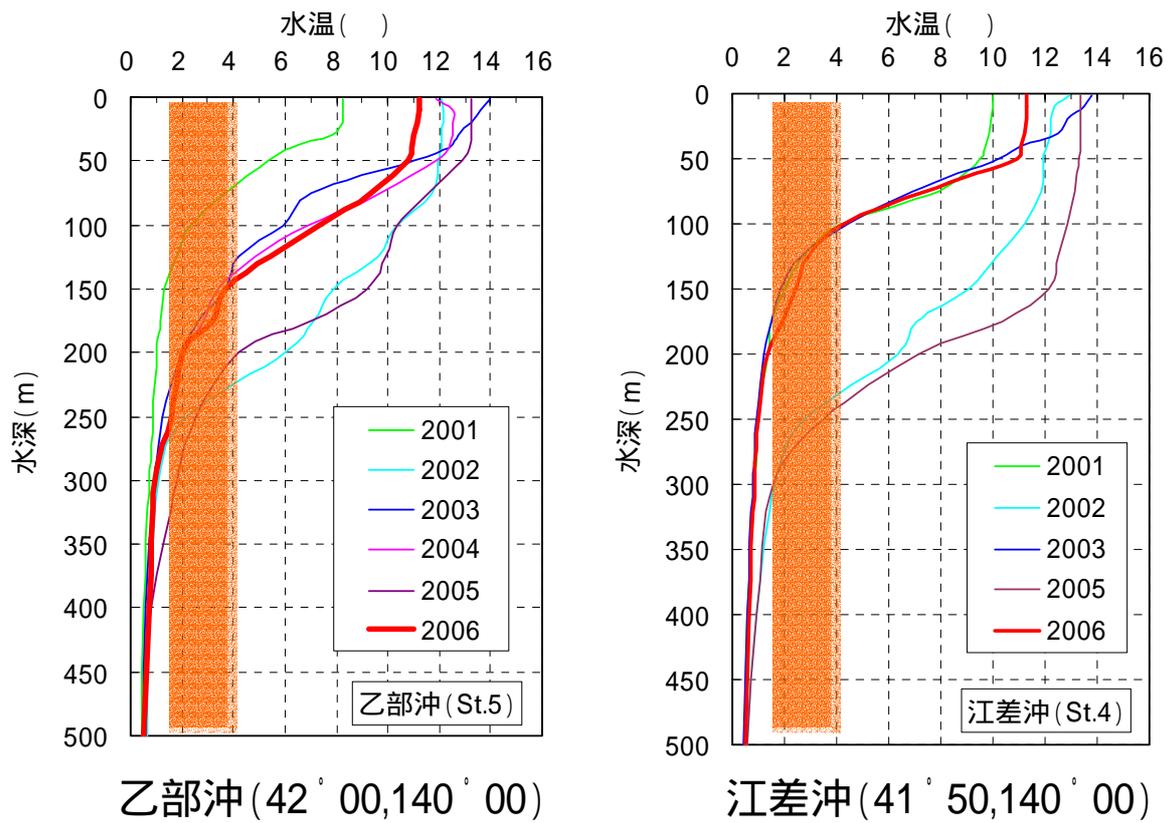


図4 乙部沖および江差沖の水温鉛直分布図
薄オレンジ部は産卵適水温帯を示す

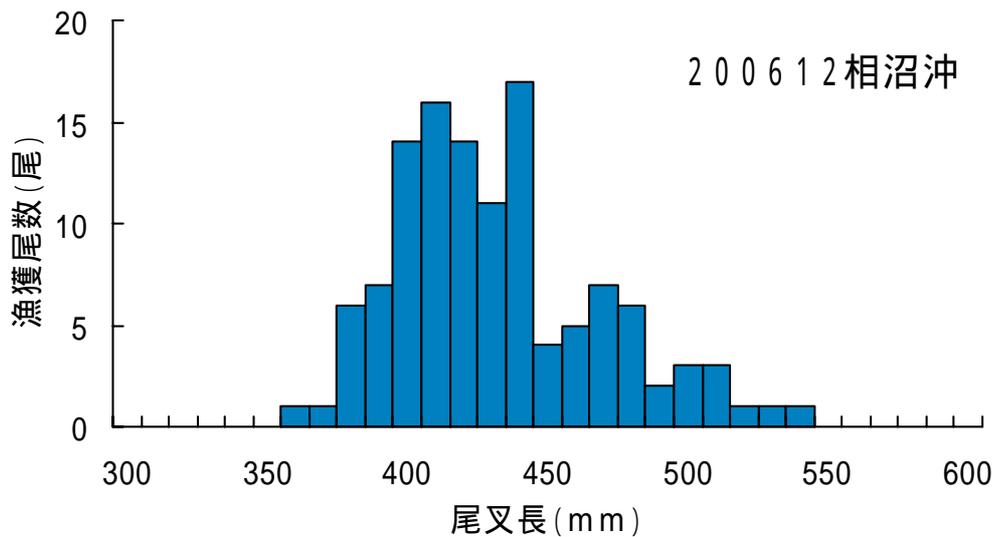


図5 中層トロールで漁獲したスケトウダラの尾叉長組成